

「かつらぎ町の学校評価システム構築事業」に係るアンケート　－抜粋－

かつらぎ町立小中学校長会

1 中期目標及び各年度の目標の設定について

○学校評価システムを構築することにより、年度内に次年度の中期目標及び各年度の目標を設定することができた。このことにより、全教職員が学校経営方針等を共有することができ、各学級、教師個人の目標へと浸透を図ることができた。

○学校評価に基づく目標設定なので、校長からのトップダウン的なイメージでなく、教職員各人が、自ら学校経営に参画しているという意識につながっている。

○中期目標の設定だけでなく、短期経営目標及び具体的方策を設定することで、教職員が具体的な指針をもって実践することが可能になった。

2 各学校における取組状況に係わる自己評価とその改善について

○取組に対する課題が明確になり、全教職員で具体的な改善策を講じることにより、取組の方向性がより一層明確になった。

○各学校における実践状況並びに達成状況を客観的に評価し、課題に対する改善策を講じることは、指導と評価の一体化につながることになる。

○自己評価を行うことで、自校の教育活動における不足している点や弱い部分が洗い出せ、改善に生かすことができた。

3 児童、保護者、地域住民の意見や要望の集約について

○学校評価を実践することで、教職員と児童、教職員と保護者との教育活動に対する意識や考えのずれや地域の方々が学校に何を期待しているかが明らかになった。これらは、特色ある教育活動を展開するための重要な資料となる。

○学校評価に係わるアンケートを実施することによって、児童、保護者の意見や要望などは概ね把握できたように思うが、地域住民の意見や要望については、学校評議員、学校の周辺の方、老人クラブの役員など一部の意見に留まっている。より多くの方々の意見や要望を聞けるようにすることが課題である。

4 外部評価委員会の設置と学校評価の実施について

○学校経営説明、学校訪問、授業参観、外部評価の実践を通して、広く学校外の人々からの意見や要望を聴取することができ。これら多くの意見を、今後の教育活動の改善に生かすとともに、学校と地域との連携推進にも活用していきたい。

○本校の外部評価委員は、自治区長と老人会長であったため、学校の状況を自治区全体に伝えることができ、学校への援助、協力が得られた。また、本校の伝統でもある「地域とともに歩む学校」「人の子もみんな我が子」の考えが定着してきている。

5 自己評価及び外部評価結果の公表について

○学校便りで、評価結果と保護者の主な意見、保護者の意見に対する学校の見解を知らせた。また、学校のホームページに外部評価と自己評価結果と学校便りを掲載した。

○校報に保護者の評価、意見、要望を全て掲載し、外部評価委員にも配布したところ、「学校の様子がよく分かる」と好評であった。ただ、本校のような山間部にある少人数の学校では、ホームページへのアクセスが少ないのが現状である。

6 その他

○学校評価を実施して、教職員の学校経営参画に対する意識改革、教育目標の共有化、PTAや地域社会と協働する学校運営強化、教職員間のコミュニケーションアップ、児童とのコミュニケーションアップ、組織力向上のための校内体制の確立、校務分掌の見直し、教職員の授業力アップ等学校力や教師力を高めることができた。

○学校評価の継続と発展が何よりも、学校運営にとって大切な役割を果たしていると実感している。

○学校の情報を広く発信することにより、保護者、地域(学校関係者評価委員)住民が学校のサポーター、応援団となってくる。学校、家庭、地域の協力関係は情報発信があってはじめて良好となる。

○町全体で学校評価を実施することは、素晴らしい取組である。今後とも、地域性、学校の独自性を大切にしながら続けていきたい。